

# 高山

たかやま  
高山の原生林を守る会

会報 第 55 号

2005 年 12 月



## 高旗山自然観察会

11月27日(日)に高旗山自然観察会を実施しました。参加者は23名でした。高旗山は山頂に大伴家持が祀られている信仰の山です。その登山道は社を祀る参道というわけです。

入山して間もなく、カエデの落ち葉を見つけると、いつもの観察会モードに入りました。今回は、初めての参加者が多いこともあり、常連の会員とのやり取りもあって、落ち葉談義も賑やかなものとなりました。アカマツ交じりの2次林をしばらく進むとブナの風格のある姿が右手の斜面に見られるようになります。林床に植生する植物相も明らかに変化して、ミヤマカタバミやジュウモンジシダの群落が見られました。ミヤマカタバミは湿ったところを好むことから、ブナにより土壌の乾燥化が抑制されているものと思われます。このブナ林を通過すると登山道は小尾根に出ますが、その出合では存在感のあるイヌブナの壮木が観察できました。イヌブナは阿武隈山系に多く植生していますが、吾妻・安達太良連峰や那須甲子県境山域では見られません。このことから高旗山は植物分布上の分水嶺であることが分かります。谷間にある唯一の水場では、この時期でも涸れることなく水が流れていました。やがてカラマツの植林地を通過しますが、カラマツに絡んだツルウメモドキの美しい果実が荒涼とした風景を和らげていました。

間もなく富岡方面(高旗鉦山跡)からの分岐と合流し、更に広がった登山道を登っていくと鳥居が現れ、頂上に飛び出しました。鳥居の近くでは見事な箒状のブナが観察できたのとは対照的に、頂上では伐採されたばかりのブナの木が無造作に放置されていました。展望を確保するための整備なのでしょう。周辺のわい性化したブナから頂上の風当たりの強さが相当のものであることが理解できます。そのブナを伐採すれば頂上付近の植生は大きく変化してしまうことは容易に想像できます。いまだにこのような‘善意の整備’しかできない関係者がいることに残念な思いを頂上に残して下山しました。

## 高旗山自然観察会に参加して

松井 さき子

今回の観察会に参加させて頂いたきっかけは、阿部ミイさんからの誘いでした。以前から聞いてはいたのですが、参加して大変勉強になりうれしく思います。

私の山歩きは花・木（特にブナ）、風景の写真を撮りながら、追いかけていくというトレッキングが主でした。でも先日の観察会は、一步踏み出した山歩きでした。葉の落ちた木々、落葉、木の芽、木の実、冬でも緑のシダ類。こんなに観るものがあるのかと驚かされました。

一つの木の芽にしても冬芽や、葉痕のひょうきんな表情はだれにたとえたらいいのでしょうか。今の季節だからこそ見られる光景ですね。あまり、時間に追われることなく、深く観察することのおもしろさ、楽しさを知りました。

「高山の原生林を守る会」は福島を自然を守る会、自然に楽しみながら、自然とふれ合いながら守っていく会だと思います。私も福島を自然を守るために少しでも手助けになればいいなと思っています。



## 初めての観察会にて

柳田 美津子



リュックを背に、晩秋の山頂目指し歩き出す。サクサク、雑木林の木の葉を踏みしめ、心地よい感触に浸り酔いしれる。ここまでは、いつもの私の山行光景だ。

とたんに、ヨウヘイ。キョシ。聞き慣れない言葉が飛び交い始めた。私の好奇心が全開し、聞き逃すまいと耳を傾けメモを取る。ひとつひとつ葉っぱを手に取り分類し、木々を探しては幹肌を観て確信する。カエデ、ナラ、シダ等など何種類もの生息に感嘆した。これもこの会あつての醍醐味に次回が待ち遠しい。幾度となく聞き返す私に、事細かく説明して下さい感謝したい。

## 高旗山自然観察会に参加して

安積 幸子

足元の花を愛で、新緑に心躍らせ、高山の涼風を楽しみ、紅葉にわが身を重ね、四季を通して山歩きをただただ楽しんでいた私は、双眼鏡を首から下げ、図鑑を小脇に抱え、足元の落ち葉から、ミズナラ、コナラ等観察しながら見分け方を勉強する「高山の原生林を守る会」の皆様の自然に対する真摯な態度に接して、自分自身を大いに反省し、学ぶところ大でした。

私が以前から気になっていた、枝先が赤く花のように見える木が「ミズキ」と知ることができ、大満足でした。その他、アオダモ、アカシデ、リョウブ、ナツツバキ、ヒメアオキ、イタヤカエデ、ミネカエデ、ツルウメモドキ、シシガシラ、ミヤマウズラ、ジュウモンジシダ等が頭の隅に残った植物名です。

今後、私も双眼鏡を首に、筆記用具持参で参加したいと思っています。（でも、実のところ双眼鏡をのぞいてもよく見えず、眼鏡をはずしたりかけたり、観察するのも記録するのも大変です。年齢のせいでしょうか？）こんな私ですが、どうぞよろしくお願ひします。







紅葉を楽しみにしていたが、白布峠に着いて見てみると、ブナの幹にはカサカサした茶色い葉っぱがもの悲しそうに風に揺れて付いるばかりで、折から冷たい雨もパラパラッと降り出し、終わりゆく秋と、近づく冬を感じさせられた。それでも、ウルシの赤やウリハダカエデのオレンジ色・ミネカエデの黄色などが美しく、今日は、どんな発見があるかなと、気分は観察会モードに切り替わった。まず、オオカメノキの冬芽に気がついた。本

当に背伸びの体操をしている人のおもしろい。今回は赤い実が沢山あった。まず、ナナカマドの実。これはお酒に漬けても苦くてまずいそうだ。ツルリンドウは赤といっても紫がかかったワインレッドで、これまた美しい。ヒメモチやアカミノイヌツゲの実は、緑の葉をバックにいよいよくっきり赤く、クリスマスカラーだ。アクシバの実も赤い。アクシバの実を食べてみたら、甘酸っぱくておいしかった。果実酒にしたらなかなかいけると思う。それにしてもアクシバとは変な名前だと思って、帰ってから検索したら、燃やした灰で灰汁を作りあく抜きに用いたとあった。それから、タムシバの実やアキグミもあった。アキグミは前回の磐梯山の観察会で、始めの急登を上がりきって、分岐のところにすごく立派なのががあった。花もいいけど実のある季節もなかなかいいものだ。



ところで、馬場谷地について話には聞いていたが、観察会で渡されたしおりの写真を見て、私も愕然とした。湿原の中に沢山の木杭が打ち込まれているのではないかな。無惨な姿である。なぜ、このようなことを営林署はして

いるのだろうか。そして、湿原入り口の前には「湿原は植生回復が難しく……



立ち入りを禁止する。」と書いてあった。自分で工事をしておきながらこの立て札は何だ!? 信じられないことである。こんなことが二度と起こらないように、声を出していかなければならないと思った。



高山の原生林を守る会 2005年度定期総会議案書

2005年11月27日(日) 13:30~16:00 源田温泉・熊田屋

(1) 2005年度活動報告

期日	内容	参加人数
1月31日	「地域管理経営計画(案)」並びに「国有林野施行実施計画(案)」に関する意見書提出(公告縦覧)	1
2月5日(土)	第74回観察会 高山・的場川周辺のブナ雪上観察会	16
4月24日(日)	第75回観察会 東吾妻山・春の雪上観察会	14
5月28日(土)	自然史博物館設立推進協議会総会	1
6月5日(日)	第76回観察会 水源の森復元ボランティア	24
6月18日(土)	東大巓湿原植生回復地現況調査(福島県担当者同行)	2
7月3日(日)	第77回観察会 西大巓・誘導ロープ補修ボランティア	13
8月28日(日)	第78回観察会 磐梯山外来植物植生観察会	24
9月17日~18日	第26回東北自然保護のつどい「秋田森吉集会」	1
10月22日(土)	第79回観察会 西吾妻・白布峠紅葉観察会	13
11月27日(日)	第80回観察会 高旗山観察会・総会	24

- 森林管理署より、高山スキー場が正式に指定解除される旨、連絡があった。4年後の見直しでは自然観察教育林に指定の可能性はある。これについては「あづまや」等の不必要な施設整備等の問題が想定される。今後、具体化した場合には行動を起こしたい。

平成17年11月14日

高橋 淳一様

福島森林管理署  
由田幸雄

高山スキー場について(お知らせ)

前略

このことについて、福島市から正式な回答があったのでお知らせします。  
その内容は、①レクリエーションの森の野外スポーツ地域(高山スキー場)の指定をはずすことに同意する、②同地域は森林内を散策出来るよう自然観察教育林に指定して欲しい、の2点です。  
次回の計画策定の際、局が見直すこととなります。

謹々

(2) 2005 年度会計報告

収入の部

科目	予算額(A)	決算額(B)
前期繰越金	248,594	248,594
会費	40,000	44,000
観察会参加費	33,000	45,300
書籍販売		11,500
カンパ	-	24,500
小計	73,000	125,300
合計	321,594	373,894

支出の部

科目	予算額(A)	決算額(B)
会議費	10,000	12,350
郵送費	40,000	34,840
観察会経費	30,000	37,520
交通費	30,000	18,740
苗木購入費	40,000	36,330
保険代	33,000	31,830
渉外費	10,000	-
雑費	30,000	12,600
予備費	98,594	3,000
合計	321,594	187,210

2005 年度決算額

186,684 円 (次年度繰越金)

(3) 2006 年度自然観察会

通算回数	期日	場所	定員	内容	担当
第 81 回	2 月 5 日 (日)	水林公園	20 名	冬の自然林観察会	高橋
第 82 回	4 月 23 日 (日)	阿武隈峡遊歩道	30 名	春の水辺の観察会	鈴木
第 83 回	6 月 4 日 (日)	龍ヶ岳	20 名	植林とブナの森散策	高橋
第 84 回	7 月 2 日 (日)	天元台～西吾妻	20 名	登山道調査とロープ補修	高橋
第 85 回	8 月 27 日 (日)	小野川と不動滝遊歩道	20 名	夏の水辺の観察会	奥田
第 86 回	10 月 22 日 (日)	早稲沢遊歩道と芋煮会	20 名	紅葉観察会(芋煮会付)	佐藤
第 87 回	11 月 26 日 (日)	熱海ケヤキの森観察会	30 名	総会(磐梯熱海温泉)	山内

(4) 2006 年度新役員：顧問を廃止し、実態に即した体制とする

代表：高橋 淳一 事務局：佐藤 守 会計：山内幹夫 会計監査：野中 俊夫  
 会報 佐藤 守、奥田 博、鈴木 勝美+ボランティア・スタッフ  
 幹事 役員全員

(5) その他

事務の効率化と資源節約のためペーパー版会報の発行を原則としてインターネット環境を持たない会員に限定し、紙の発行部数を少なくします。

質疑応答の概要

- 他市町村の植林では苗木代 3 本を 1 0 0 0 円出してもらって、参加者に自然に対する意識付けをしている事例がある。
- 植林に関しては、熊などの動物に対して有効な実のなる木を植林してはどうか。⇒そのようにしている。しかし里に降りる熊については、単純ではない。
- 植林に関してはマスコミにアピールしてはどうか？それにより市民運動が広がるのではないか。⇒現在の植林地が JA から国への返還手続きが終了すれば、そうしたい。
- 植林をして将来、森になったことを確認できる子供たちが、多く参加できると、将来に伝える意味があるのではないか。
- 年会費 5 0 0 円、観察会参加費 3 0 0 円は今どき安過ぎるのではないか。⇒値上げが必要になれば、考える。これまではカンパ等で切り抜けて来ている。
- 山に登って楽しんでいるので山に対して何か出来ればいい。
- 将来、観察会の講師を出来るようになりたい。
- 植物を覚えるとか、覚えなくてかではなく、気長に参加したい。
- 私は高山の会の観察会日程を何より優先して入れている。
- 資料作成には植生だけではなく、歴史などを入れて、愛着が湧くと思う。
- 例えば今日の山頂であったように景観を優先して木を切ることを考えることが大切だ。
- 自然に接するセンスが大切だ。
- 正式に高山スキー場計画に終止符が打たれるまで、会発足から 2 0 年を要した。その意味することは、物事を変えるにはこれだけの期間が必要であ、粘り強く活動を継続することに意義があるということではないか。